

約500人が 春の矢代を

6月1日 歩いた交流遠足!

来年度から始まる新井小での学校生活。そこで自分の力を発揮できる気力を育てるのが今年度の課題です。そのためには、子どもたちが矢代小、そしてふるさと矢代に対して愛情と誇りをもつことが欠かせないと考えます。

そこで、新井小の子どもたちに、矢代を歩いてもらい、豊かな自然と歴史を実感する交流遠足を企画しました。その際、矢代小の子どもが、ふるさと矢代の素晴らしさを新井小の子どもたちに説明することによって、ふるさとに対する愛情と誇りを高めることも目標としました。

例年になく、豪雪だった今年の冬の影響で、集合地点に予定した万内川砂防公園の積雪が多く、6月1日に期日を延期して実施しました。1・2年生は、学年ごとに、3年生以上は小グループを組み、春の名残が感じられる矢代の地を、ウォークラリー形式で歩きました。普段、車での移動が多く、歩く機会が少ないためか、大変だったようです。ゴールの砂防公園入口では、汗だくになっている子、足が痛くなったと訴える子、「やった!」と到着の喜びを爆発させる子等、それぞれでした。



矢代小に到着した1・2年生は、新井小の皆さんに矢代小の校舎案内をしました。とても上手に案内・説明できました。



広くびかびかの「あいホール」で合同授業。



長い距離を歩いてくたになっても、矢代地区の説明をやり通す矢代っ子の姿に「矢代魂」を感じました。



はきりって校舎を案内する2年生。

ようこそ!ここが矢代小の体育館です。

緊張!ミニバス練習試合6月7日

新井小に出かけての練習試合。いつも練習している矢代小の体育館よりも大きな新井小の体育館。他流試合を申し込んだ昔の武者修行の心境でしょうか。

緊張の中の試合では、思い通りの力を出せなかったかもしれませんが、それもいい経験だったはず。こうした経験を一つ一つ積みかさねることが、子どもたちの気力を高めると考えます。これからも、どんどん新井小の子どもたちと一緒に練習する機会を設けていきます。ちなみに夏休み(8月下旬)には、合同で陸上競技の練習を行う予定です。



一緒に食べる給食の味はどんな味かな?



どきどき わくわく

新井小の子どもたちとの交流活動



両校の「お願いします!」の声で、試合が始まりました。

「習うより慣れろ」のことわざの如く、昨年度から新井小に出かけ、子どもたちと交流や施設見学の機会を設けています。一緒に学習する、一緒に遊ぶ、一緒に給食を食べるなどことによって、心の「壁」を越えることができると考えます。私服で活動している時は、誰が矢代小だか、新井小だかわかりません。これも、矢代小の子どもたちを温かく受け入れてくださっている新井小の子どもたち、そして教職員の皆さんの思いやりのおかげと感謝しています。

これからも、こうした機会をできるだけ設け、互いのよさを発揮し合う活動を通して、互いを認め合い、尊敬し合える関係を築くことができたらいいなと願っています。

かかわる大切さを学んだ子どもたち

※6年生の学級便り(6/8発行)から紹介します。

ぼくらの班は13人で、そのうち11人が新井小でした。知らない人ばかりだったけれど、みんな優しく、歩きながら話をしたりチェックポイントでクイズをしたりしているうちに、どんどん仲良くなることができました。

帰りの道では、「中学校で、どんな部活をしたい?」「走るの早い?」など、いろいろな話をしました。中学校へ行くと、人とかかわることがもっと増えるので、この経験を生かして友だち作りを頑張りたいです。

※一部省略